






# 知ってください! これから受ける検査のこと



-  検診を受けることで、がんによる死亡リスクが減少します。
-  検診で「要精密検査」となった場合は、その後必ず精密検査を受けてください。
-  検診では、がんでないのに「要精密検査」と判定される場合や、がんであるのに見つからない場合もあります。
-  検診は、市と各医療機関が連携して行っています。精密検査の結果は関係機関で共有されます。※
-  なお、精密検査にかかる費用は自己負担になります。また、医療機関によっては選定療養費(初診や再診のための費用)がかかる場合があります。

※精密検査の結果は市へ報告され、最初に検診を受けた医療機関にも医療機関の検診精度向上のため精密検査結果が共有されます。



## 胃がん 検診

- わが国では50歳代以降に罹患する人が多く、がんによる死亡原因の上位に位置するがんです。
- 検診は2年に1度、定期的に受けてください。ただし、胃の痛み、不快感、食欲不振、食事がつかえるなどの症状がある場合は次の検診を待たずに医療機関を受診してください。
- 精密検査は胃内視鏡検査です。



## 大腸がん 検診

- わが国では罹患する人が増加しており、がんによる死亡原因の上位に位置するがんです。
- 検診は毎年定期的に受けてください。ただし、血便、腹痛、便の性状や回数に変化した、などの症状がある場合は次の検診を待たずに医療機関を受診してください。
- 精密検査の第一選択は全大腸内視鏡検査です。



- わが国ではがんによる死亡原因の上位に位置するがんです。
- 検診は毎年定期的に受けてください。ただし、血痰、長引く咳、胸痛、声のかれ、息切れなどの症状がある場合は次の検診を待たずに医療機関を受診してください。
- 精密検査はCT、もしくは気管支鏡検査などです。



- わが国では女性のがんの中でも罹患する人が多く、がんによる死亡原因の上位に位置するがんです。
- 検診は2年に1度、定期的に受けてください。ただし、しこり、乳房のひきつれ、乳頭から血性の液がでる、乳頭の湿疹やただれなどの症状がある場合は、次の検診を待たずに医療機関を受診してください。
- 精密検査はマンモグラフィの追加撮影、超音波検査、細胞診、組織診などで、これらを組み合わせて行います。



- わが国では女性のがんの中で罹患する人が多く、特に30~40歳代の女性で近年増加傾向にあるがんです。
- 検診は2年に1度、定期的に受けてください。ただし、月経(生理)以外に出血がある、閉経したのに出血がある、月経が不規則などの症状がある場合は次の検診を待たずに医療機関を受診してください。
- 精密検査はコルポスコープ下の組織診・細胞診・HPV検査などを組み合わせて行います。

## がん検診のデメリット

すべての検診には「デメリット」があります。がんは発生してから一定の大きさになるまでは発見できませんし、検査では見つけにくいがんもありますので、すべてのがんが検診で見つかるわけではありません。

また、がんでなくても「要精密検査」と判定されたり、放置しても死に至らないがんが見つかったりすることにより、結果的に不必要な治療を受けなければならない場合もあります。さらに、胃がん検診や、子宮頸がん検診では、検査によって出血などが起こることがあります。

しかし、がん検診はこれらの低い確率で起こるデメリットよりも、がんで亡くなることを防ぐメリットが大きいことが証明されているため、必ず定期的に受診してください。

